



- ・ 終局耐力  $P_{u0}$  : 木規準 p249
- ・ すべり剛性  $K_s$  (二面せん断 (鋼板挿入)、木材のヤング係数  $E_0$  は接合部配置から  $8000\text{N/mm}^2$  とする。): 木規準 p232
- ・ 先孔のクリアランスの補正 : 事例集 p28
- ・ 割線すべり係数 : マニュアル p268

●モデル化

モデル化の方法としては、以下の4つがある。

- ①実験値から得られる接合部の剛性、耐力を適切にバネ置換し、要素モデルでモデル化する。
- ②「木質構造設計規準・同解説」(木規準)を用いて得られる接合部の剛性、耐力を適切にバネ置換し、要素モデルでモデル化する。
- ③実験値から得られる接合部の軸力 - 変形性能とヤング係数と断面性能から求まる母材の軸力 - 変形関係の直列バネを等価な部材に置換してモデル化する。
- ④「木質構造設計規準・同解説」(木規準)を用いて得られる接合部の軸力 - 変形性能とヤング係数と断面性能から求まる母材の軸力 - 変形関係の直列バネを等価な部材に置換してモデル化する。

木規準でバネを計算する際 (②または④の場合) に、接合具と先孔にクリアランスが存在する場合には、木規準の算定式による剛性係数を「木質構造接合部設計事例集」の (2.21) 式により補正すること。

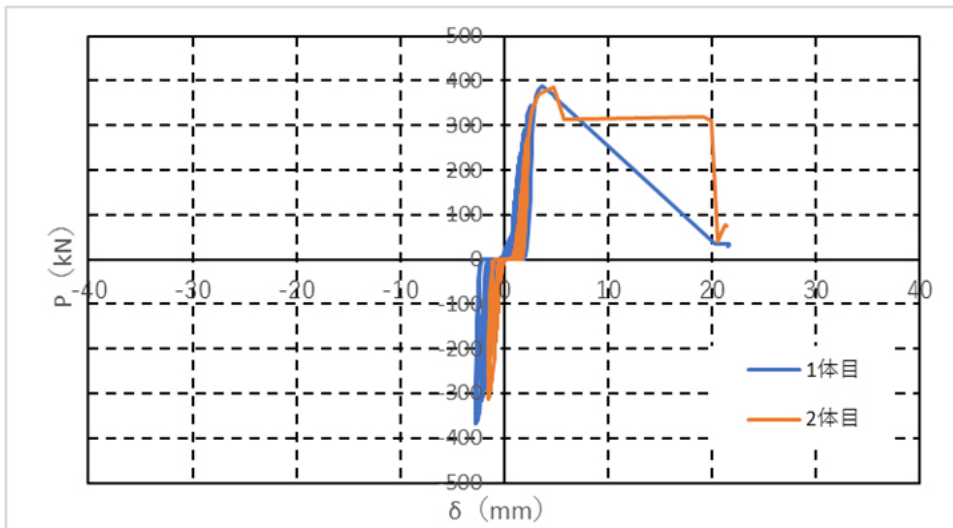
●特性値

	$\delta v$ (mm)	$P_u$ (kN)	$K$ (kN/mm)	$\delta u$ (mm)	$P_{y\_perfect}$ (kN)	2/3 $P_{max}$ (kN)	$P_a$ (kN)	$P_{max}$ (kN)	初期遊び (mm)
初期遊び補正									
1 体目実験値 (引張)	1.3	349	271.3	4.4	-	259	-	389	0.5
2 体目実験値 (引張)	1.7	356	213.6	4.8	-	256	-	384	1.0
初期遊び補正なし									
1 体目実験値 (引張)	2.2	343	153.5	4.9	233	259	233	389	-
2 体目実験値 (引張)	2.7	324	121.2	5.8	-	256	-	384	-
計算値 (木規準)	1.6	245	150.6	5.4	-	-	164	-	-
計算値 (実験値)	2.3	353	150.6	5.4	-	-	-	-	-

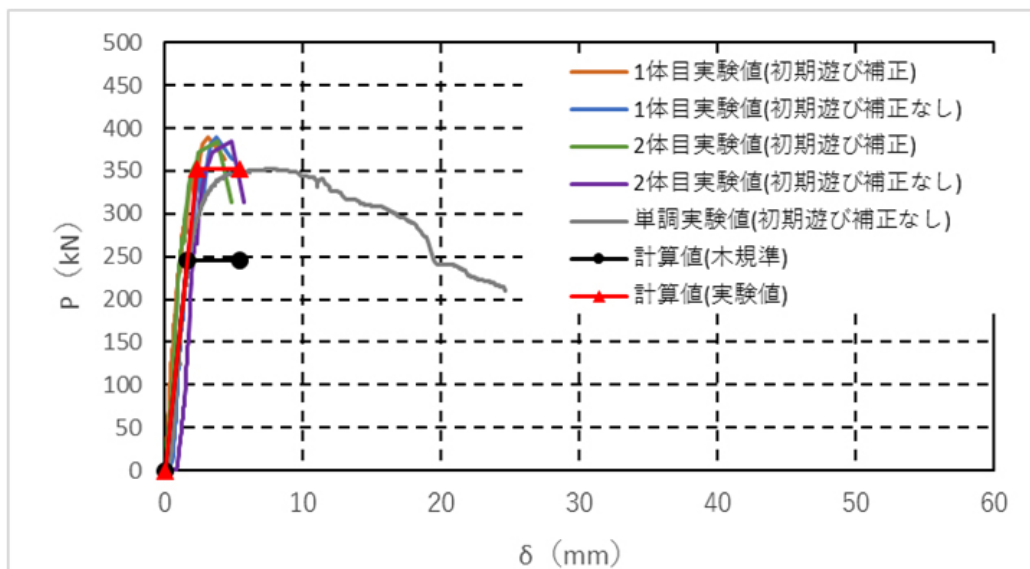
\*1. 列について、 $\delta v$  特定変位、 $P_u$  終局耐力、 $K$  剛性 ( $P_u / \delta v$ )、 $\delta u$  終局変位、 $P_{y\_perfect}$  完全弾塑性評価による値、2/3 $P_{max}$  最大耐力の 2/3、 $P_a$  短期耐力 ( $P_{y\_perfect}$  と 2/3 $P_{max}$  の最小値)、 $P_{max}$  最大耐力

\*2. 行について、実験値 (引張) - 引張加力の実験値、実験値 (圧縮) - 圧縮加力の実験値 (繰り返しのみ)、計算値 (木規準) - 木規準の剛性及び接合部耐力と接合部実験の終局変位から導いた計算値、計算値 (実験値) - 木規準の剛性と接合部実験の終局耐力の平均値及び終局変位から導いた計算値 (終局変位は初期遊び補正の  $\delta u$  の平均値に鋼板孔のクリアランス 0.75mm を足した値)

● 荷重変形



荷重変形関係



引張側の評価 (包絡線)

● 破壊性状



集合型せん断破壊